

[11.24 防災シンポジウム]

いのちを守る防災のあり方を考える — 人・自然・共生 —

弁護士 中 島 晃
(市民共同法律事務所)

・山川草木悉有（皆）仏性

山川草木とそこで育まれる無数の生命（鳥、獣、虫、その他さまざまな生き物）のつながりのうえに私たちの生命が成り立っており、人間の生命の営みは、こうした無数の生命の連鎖と循環の一コマである。

・道元の和歌

峰の色 溪のひびきも皆ながら 我が釈迦牟尼の声と姿と

曹洞宗の開祖道元（1200～1253）は、山川草木悉有（皆）仏性というさきに述べた仏教の教えを31文字に見事に表現している。

・共生の思想

「共生」（ともいき）・・・それは、人と人との共生は無論のこと

人と自然との共生であり、過去と現在、そして未来につながる生命の共生をも意味している。

・京都の仏教者の実践

京都の仏教者たちは、さきに述べた仏教の教えをもとにこれまでさまざまな実践に取り組んできた。

例えば

大文字山のゴルフ場建設反対の運動

法然院の梶田真章さん

鴨川上流のダム計画反対の取り組み

志明院の田中真澄さん
小倉山の残土投棄に反対する取り組み
浄寂光寺の長尾憲彰さん
市原のゴミ焼却場反対のたたかい
恵光寺の岸野亮淳さん

- ・レジスタンスの歴史に学ぶ

京都をとりまく里山がいま深刻な危機にさらされている。山川草木の生命が危うくされるとき、私たちの生命もまたおびやかされる。

“神を信じる者も信じない者も”ともにファシズムとたたかった一共闘の思想に学び、

“仏を信じる者も信じない者も”京都を取りまく山と川、草と木、人々の暮らしを災害から守り抜くために、ともに力を合わせてたたかうことが求められているのではないか。

- ・未来に生きる人々のために

毎年のように各地を襲う災害は、自然との共生（生物多様性や生態系の保護）をないがしろにして、ひたすら経済成長を追い求めて、そのための開発を押しすすめてきた社会のあり様と人間のおごりに対する警鐘ということができる。

そうすると、子供たちをはじめ、未来に生きる人々のために、現在を生きる私たちが具体的な行動をおこすことがいま真剣に求められているといえよう。

それは、グレタさんの国連での「怒りのスピーチ」にこたえる私たち大人の責任でもあると考える。